

2017年度（2018年3月期） 第3四半期 決算説明会

2018年 1月 31日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

- 2017年度 第3四半期決算
- 2017年度 通期業績予想

決算ハイライト（第3四半期連結累計期間）

(億円)	2016年度		2017年度		前年同期比	
	3Q累計	%	3Q累計	%	増減額	増減率
売上収益	7,658	-	8,334	-	+676	+8.8%
事業利益	540	7.1%	584	7.0%	+43	+8.1%
営業利益	572	7.5%	522	6.3%	-50	-8.8%
税引前利益	573	7.5%	510	6.1%	-63	-11.1%
四半期利益	470	6.1%	347	4.2%	-123	-26.3%
EPS*	132.93 円		98.12 円			
換算 レート	USD	106.63 円	111.67 円	為替影響額 (億円)	売上収益	事業利益
				USD	+115	△31
	EUR	118.02 円	128.48 円	EUR	+110	+72
				その他通貨	+124	+65
				合計	+351	+105

* 基本的1株当たり四半期利益

3

- 2017年度 第3四半期 連結累計期間の実績は、ご覧の通りです。
- 売上収益は、前年同期比 676億円 増収の 8,334億円、事業利益は、43億円 増益の 584億円、四半期利益は、123億円 減益の 347億円 となりました。
- 四半期利益の減益は、その他の営業収益費用で、為替予約時とのレート差異による差益が発生した前年同期に対し、今期は差損が発生していること、また、第3四半期の税金費用で、国内子会社の吸収合併に伴う減少があった前年同期に対し、今期は、米国における税制改正の影響などによる増加があったことによります。
- なお、当連結累計期間の為替変動により、売上収益で 351億円、事業利益で 105億円 のプラス影響がありました。

決算ハイライト（第3四半期）

(億円)	2016年度		2017年度		前年同期比	
	3Q実績	%	3Q実績	%	増減額	増減率
売上収益	2,782	-	3,061	-	+278	+10.0%
事業利益	283	10.2%	303	9.9%	+19	+6.9%
営業利益	295	10.6%	285	9.3%	-9	-3.3%
税引前利益	303	10.9%	280	9.2%	-22	-7.5%
四半期利益	284	10.2%	195	6.4%	-89	-31.3%
EPS*	81.03		55.57			
換算 レート	USD EUR	109.30	112.92	為替影響額 (億円)	売上収益	事業利益
		円	円	USD	+28	△7
		117.78	132.96	EUR	+60	+42
		円	円	その他通貨	+46	+21
				合計	+135	+55

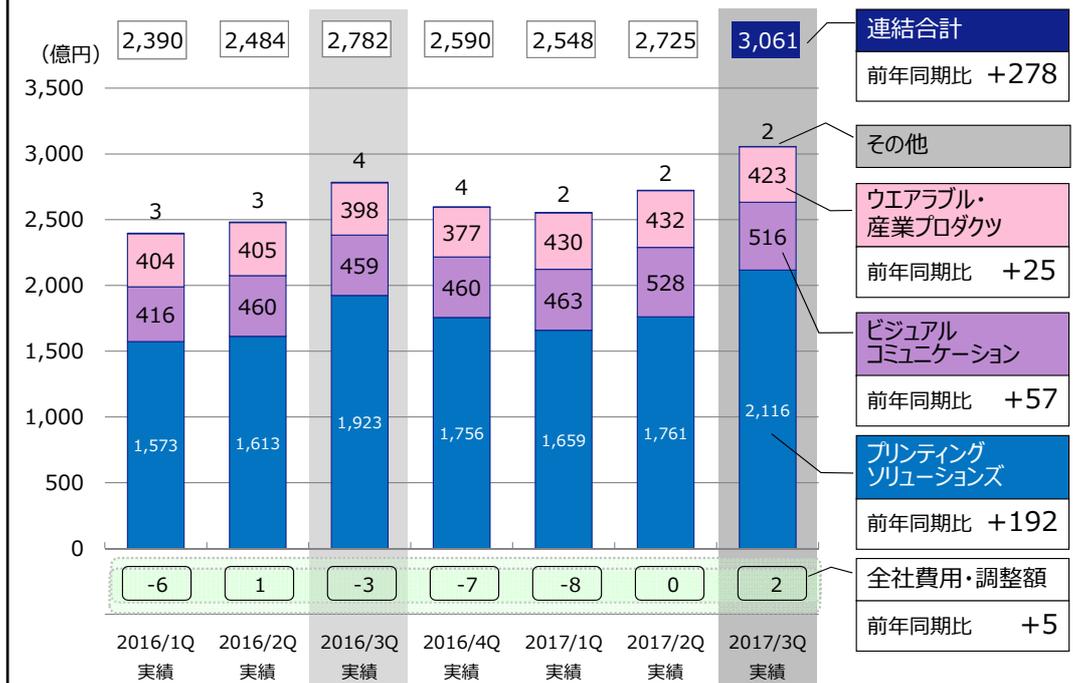
* 基本的1株当たり四半期利益

4

- 2017年度 第3四半期の実績は、ご覧の通りです。
- 売上収益は、前年同期比 278億円 増収の 3,061億円、事業利益は、19億円 増益の 303億円、四半期利益は、89億円 減益の 195億円 となりました。
- 当四半期の為替変動により、売上収益で 135億円、事業利益で 55億円 のプラス影響がありました。

四半期売上収益推移 ▶ 事業セグメント別

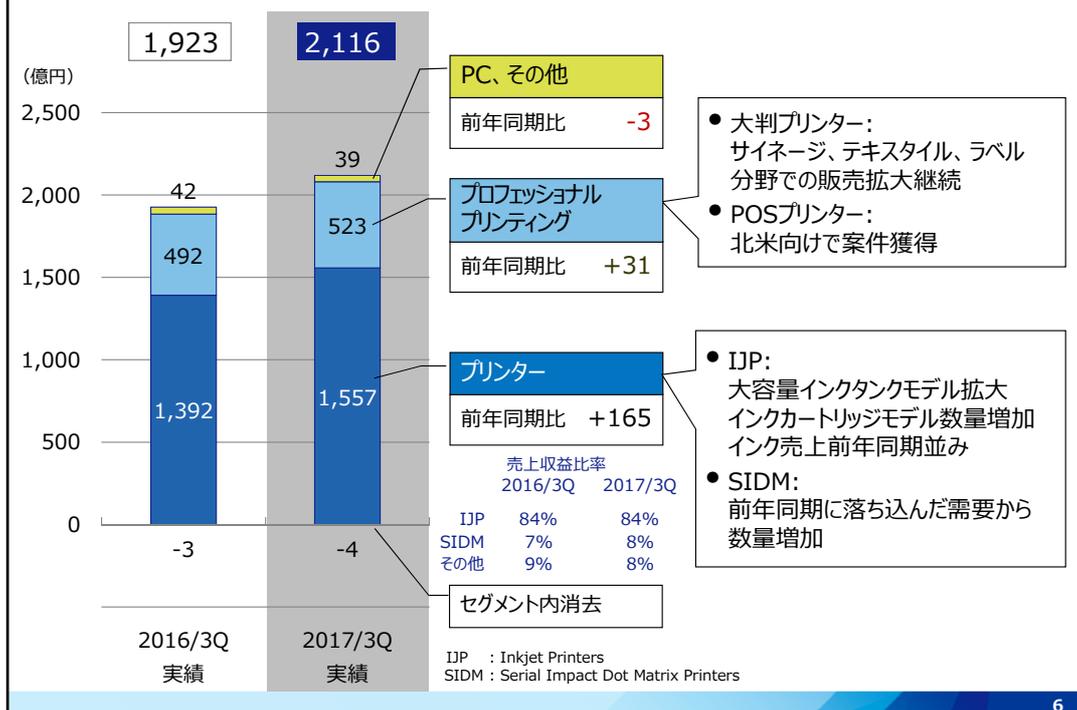
EPSON
EXCEED YOUR VISION



- こちらは、事業セグメント別の 四半期 売上収益推移となります。
- 第3四半期は、各事業セグメントにおいて販売拡大が継続したことに加え、為替によるプラス影響もあり、大きく増収となりました。

四半期売上収益比較 ▶ プリンティングソリューションズ

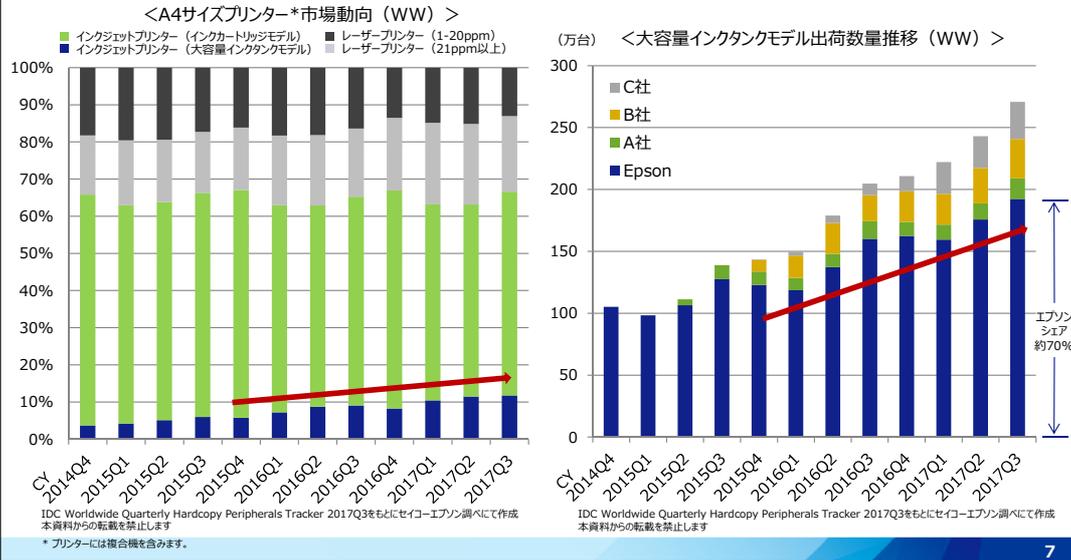
EPSON
EXCEED YOUR VISION



- ▶ プリンティングソリューションズの売上収益の前年同期との比較は、ご覧のとおりです。
- ▶ プリンター事業は、大容量インクタンクモデルの販売数量が、引き続きエマージング地域・先進国ともに拡大しました。また、インクカートリッジモデル本体の販売数量は、日本で家庭向けが減少したものの、欧米において、競合プロモーションへの対応を図ったことなどもあり、オフィス向けを中心に増加し、全体の販売数量は若干増加しました。インクは、日本、北米のチャネルにおける一時的な在庫調整や、家庭向けプリンターの市場稼働台数の減少の影響がありましたが、為替のプラス影響もあり、売上収益は前年同期並みとなりました。
- ▶ SIDMは、中国において税制改定の方針変更による一時的な販売減少があった前年同期に対し、販売数量が増加しました。
- ▶ 事業全体では、これらに加え、為替のプラス影響もあり、増収となりました。
- ▶ プロフェッショナルプリンティングは、大判プリンターで、フォト・グラフィックス分野が競合他社の影響により減少したものの、引き続き、サイネージ・テキスタイル・ラベル分野で販売が拡大しました。また、POSプリンターは、北米における案件の獲得などにより、販売が好調に推移しました。これらに加え、為替のプラス影響もあり、事業全体では、増収となりました。

大容量インクタンクモデルの拡大

- 大容量インクタンクモデル市場は、WWで着実に拡大し、A4サイズプリンター*市場の中でも一定の地位を確立
- 競合他社の市場参入後も、エプソンの出荷数量は拡大



- ここで、大容量インクタンクモデルと、高速ラインインクジェット複合機の現在までの状況についてご説明します。
- 始めに、大容量インクタンクモデルの状況をご説明します。
- 左のグラフは、A4サイズ プリンター・複合機のグローバルでの市場構成比を示したグラフです。
- 構成は、下から大容量インクタンクモデル、インカートリッジタイプのインクジェットプリンター、1分間あたりの印刷枚数が21枚以上のレーザープリンター、20枚以下のレーザープリンターとなっています。
- ご覧のように、大容量インクタンクモデルは、ワールドワイドで着実に拡大し、A4サイズプリンター市場の中でも、10%を超える水準となりました。
- 右のグラフは、大容量インクタンクモデルのメーカー別出荷数量の推移を表しています。
- 青い棒グラフはエプソンの出荷数量を示していますが、ご覧の通り、他社が市場参入した後も、エプソンの大容量インクタンクモデルは着実に拡大していることがご確認いただけます。

- 12月までにグローバルでローンチ完了
- 継続的に各地域での販売体制・プロモーションを強化
 - 専属の販売/サポート担当者の採用
 - 性能を実感できる機会を増加
 - 販売店との関係強化
- お客様の新たなニーズへの対応
 - オフィスの環境負荷低減のトレンドに対し、企業に響く環境訴求のコミュニケーションを実施
 - お客様の要望に応えた機能の追加

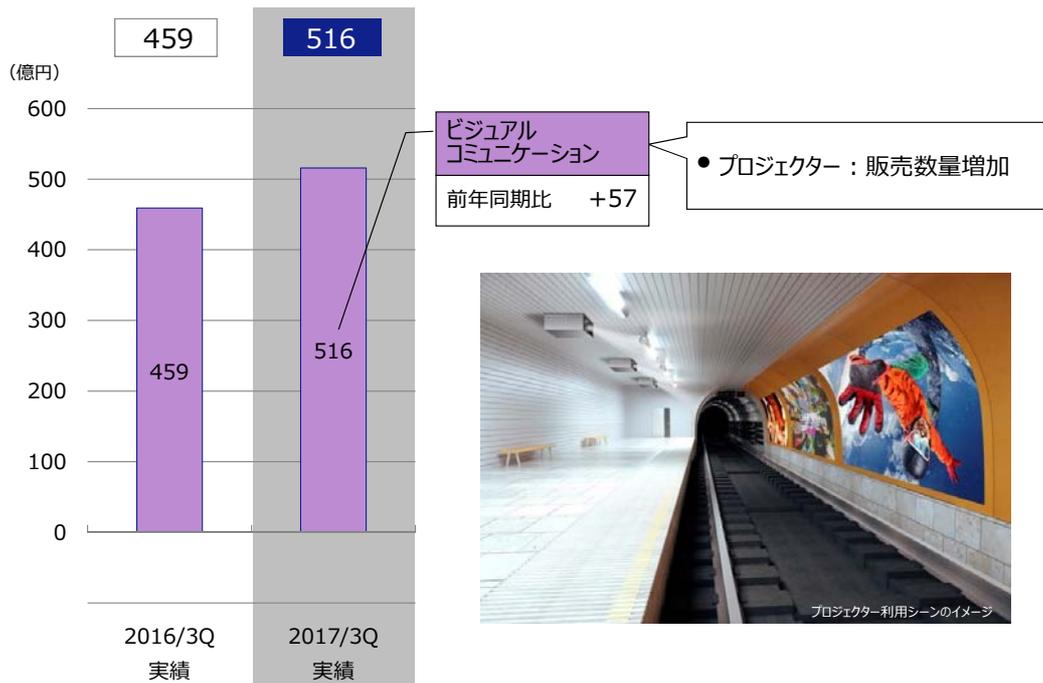


8

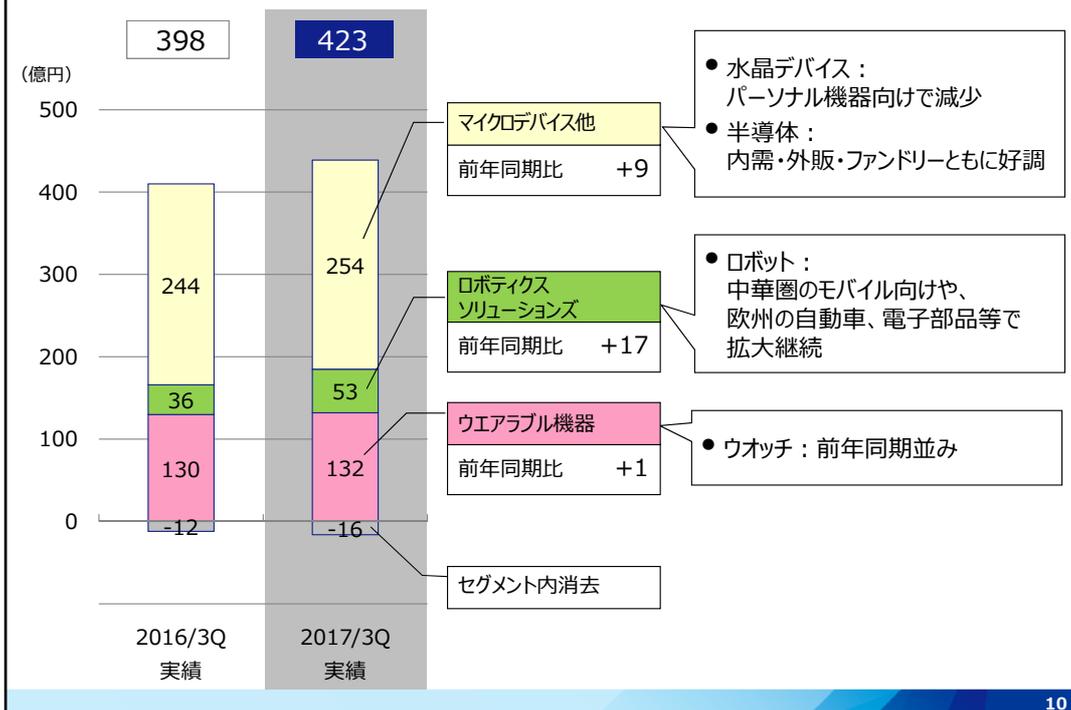
- 続いて、高速ラインインクジェット複合機における取り組みをご説明します。
- 昨年の6月に市場投入した高速ラインインクジェット複合機は、日本、欧州、北米に続き、12月までに中国をはじめとするアジア諸国でも販売を開始しました。
- 各地域で、販売体制の整備やプロモーション活動の強化を図り、いよいよグローバル展開を進めてまいります。
- また、同時に、お客様との対話や商談を積み上げる中で顕在化した、新たなお客様のニーズにも、対応していきます。
- 例えば、多くの企業が、オフィスにおける環境負荷の低減に向けた取り組みを進めており、エプソンの高速ラインインクジェット複合機の特長である低消費電力など環境性能の訴求が効果的であることなどが、改めて確認できました。
- このため、1分間に100枚を印刷できる高速・高画質の印刷性能に加え、レーザー方式に対し、消費電力量が大幅に低減できることなど、環境性能を訴求したコミュニケーションを強化して展開いたします。
- また、日本市場特有のサーバーレス認証機能を追加するなど、お客さまの要望に応えた機能の追加も行いました。

四半期売上収益比較 ▶ ビジュアルコミュニケーション

EPSON
EXCEED YOUR VISION



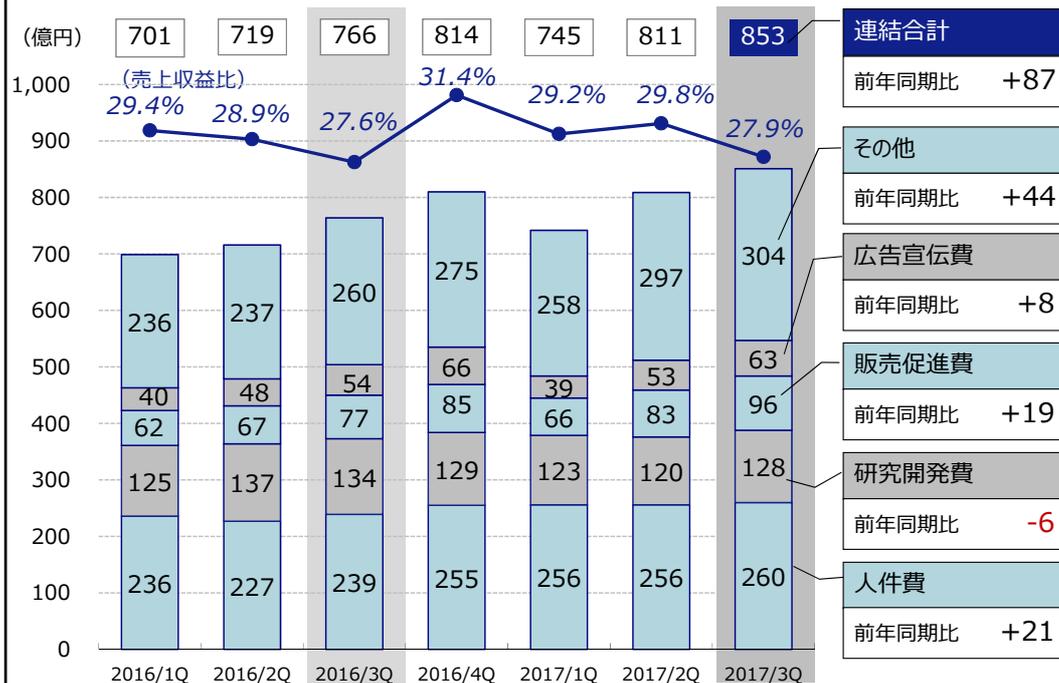
- ▶ ビジュアルコミュニケーションは、
プロジェクター市場全体で、大きな成長が見られないなか、
エプソンは、高光束をはじめ、超短焦点、スタンダード、ホームの
すべてのカテゴリで、販売数量が拡大し、
為替のプラス影響もあり、増収となりました。



- 続いて、ウェアラブル・産業プロダクツです。
- ウェアラブル機器は、前年同期並みに推移しました。
- ロボティクスソリューションズは、
ロボットが、中華圏で、モバイル機器組立用途が増加したことに加え、
欧州でも、自動車、電子部品などの搬送・組立用途も増加し、
為替のプラス影響もあり、増収となりました。
- マイクロデバイス他は、
水晶で、中華圏のスマートフォン向けの減少などがあったものの
半導体で、内需・外販・ファンドリービジネスの好調が継続し、
微細合金粉末、表面処理加工などでも、堅調に推移したことに加え、
為替のプラス影響もあり、事業全体では、増収となりました。

四半期販売費及び一般管理費推移

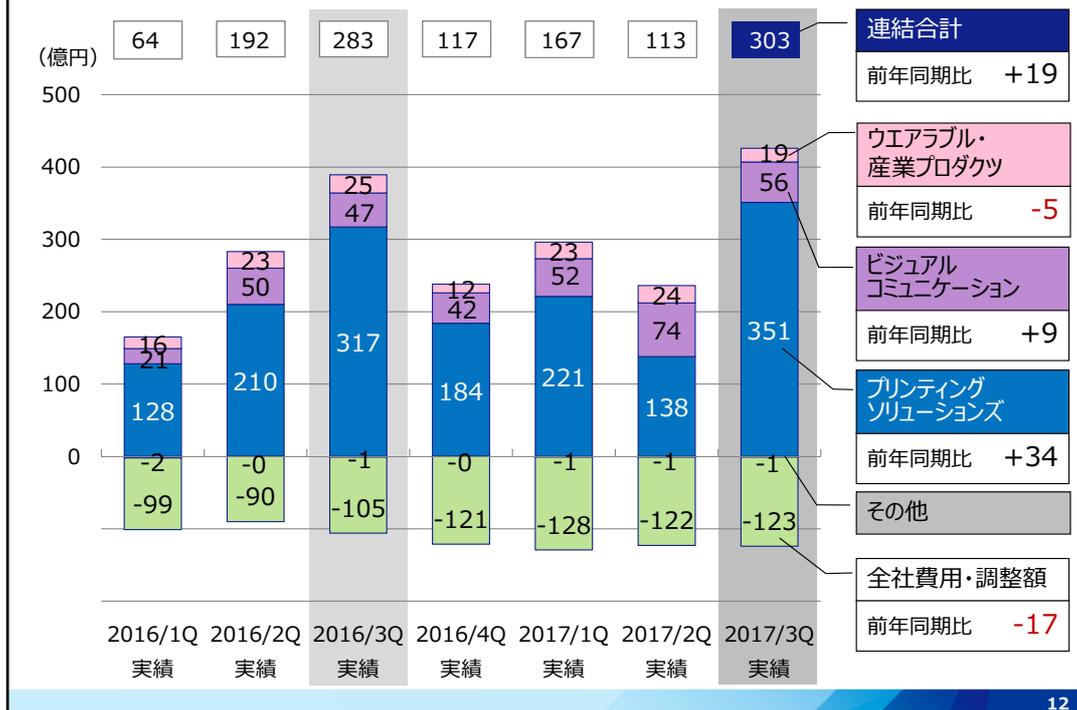
EPSON
EXCEED YOUR VISION



- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧の通りです。
- 前年同期からは、為替が円安に推移した影響もあり、87億円の増加となりました。
- 人件費、販売促進費、広告宣伝費は
販売体制の強化や、戦略製品のプロモーション活動などにより増加しました。
- その他の項目は、
一部の知的財産に関する費用の、計上科目変更にとまなう増加などがありました。

四半期事業利益推移 ▶ 事業セグメント別

EPSON
EXCEED YOUR VISION

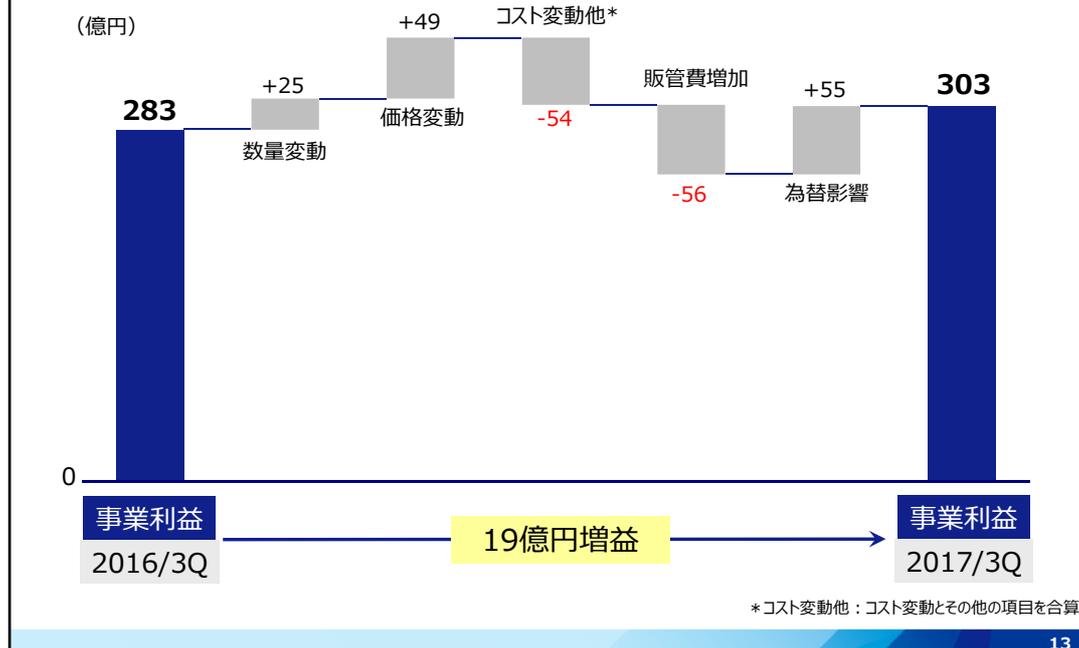


- 事業セグメント別の 四半期 事業利益推移は、ご覧のとおりです。
- 前年同期に対して、プリンティングソリューションズは、高速ラインインクジェット複合機を中心に戦略製品の販売基盤強化のための積極的な費用投下に加え、電子部品や原料・素材等の調達価格上昇など、費用の増加があったものの、増収効果に加え、為替によるプラス影響により、セグメント全体では増益となりました。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターの増収や、為替のプラス影響を受けて、増益となりました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、増収効果があったものの、水晶デバイスにおけるモデルミックスの変動や費用の増加などにより、セグメント全体で、減益となりました。
- 全社費用・調整額の費用増加には、一部の知的財産に関する費用の、計上科目変更にとまなう増加などが含まれています。

スライドは 前ページと同様

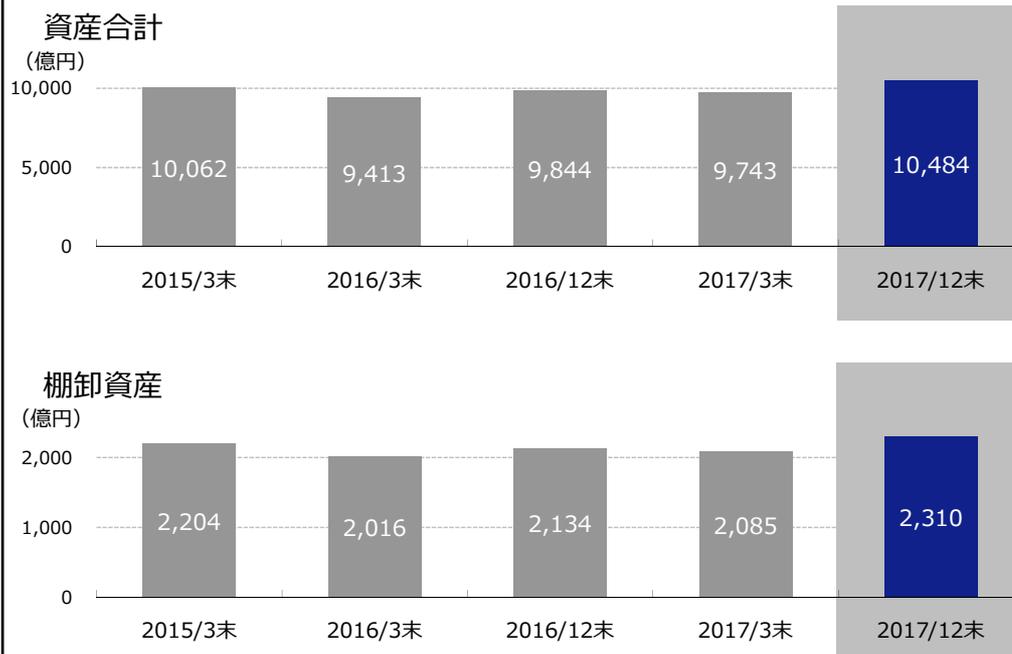
- ここで、前回開示の前提となる第3四半期の社内計画に対する進捗をご説明します。
- 売上収益は、一部事業で未達でしたが、為替のプラス影響もあり、計画を上回りました。一方、事業利益は、一部事業の売上の未達に加え、費用の増加もあり、為替のプラス影響があったものの、若干の未達となりました。
- プリンティングソリューションズの売上収益は、インクカートリッジモデル本体で、欧米における競合プロモーションに応じた価格対応の実施、インク売上で、本体数量の販売未達の影響に加え、チャンネルの一時的な在庫調整による、一部売上の第4四半期へのスライド、また、大容量インクタンクモデルで、一部部品の調達納期の変更による、第4四半期へのスライドがあり、計画未達となりました。
- 事業利益は、売上収益の未達に加え、電子部品や原料・素材などで想定以上の調達価格の上昇があったことなどもあり、未達となりました。なお、インクカートリッジモデル本体の生産変動に伴う利益影響は、概ね計画通りに推移しました。
- ビジュアルコミュニケーションは、堅調に推移しました。
- ウエアラブル・産業プロダクツは、水晶で、中華圏のスマートフォン向け、および、ウエアラブル機器で、一部新商品などが計画未達となったことから、売上収益、事業利益ともに計画未達となりました。

第3四半期 事業利益増減要因分析



- 第3四半期 事業利益の前年同期比 増益額 19億円の要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、家庭向けインクカートリッジ、フォト・グラフィックスの大判プリンターでマイナス影響がありましたが、大容量インクタンクモデル、プロジェクター、半導体、ロボットなどのプラス効果が上回りました。
- 価格変動は、マイクロデバイスや、欧米でのインクカートリッジモデル本体の価格下落があったものの、インクカートリッジやプロジェクターのミックス変動などにより、トータルでプラスとなりました。
- コスト変動は、高付加価値製品の増加や、原材料費等の高騰の影響などがありました。
- 販管費の増加は、販売体制の強化などによるものです。

財政状態計算書主要項目推移



- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、売上債権およびその他の債権や、棚卸資産、フィリピン新工場完成による有形固定資産の増加などにより、前期末に対して740億円増加し、1兆484億円となりました。
- 棚卸資産は、前期末に対して225億円増加し、2,310億円となりました。

財政状態計算書主要項目推移

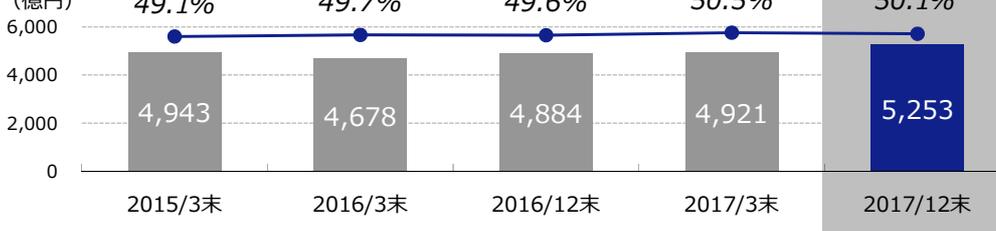
有利子負債・有利子負債依存度

(億円)



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率

(億円)



- 有利子負債は、
前期末に対して299億円増加の、1,764億円となり、
資産合計の有利子負債依存度は16.8%となりました。
- ネットキャッシュは、472億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、
前期末に対して331億円増加の5,253億円となり、
親会社所有者帰属持分比率は、50.1%となりました。

- 2017年度 第3四半期決算
- 2017年度 通期業績予想

2017年度 業績予想

EPSON
EXCEED YOUR VISION

(億円)	2016年度		2017年度				前期 実績比	10/26 予想比
	実績	%	10/26 予想	%	1/31 予想	%		
売上収益	10,248	-	10,700	-	11,100	-	+851 +8.3%	+400 +3.7%
事業利益	658	6.4%	790	7.4%	790	7.1%	+131 +20.0%	±0 ±0%
営業利益	678	6.6%	760	7.1%	720	6.5%	+41 +6.1%	-40 -5.3%
税引前利益	674	6.6%	760	7.1%	720	6.5%	+45 +6.7%	-40 -5.3%
当期利益	484	4.7%	580	5.4%	510	4.6%	+25 +5.3%	-70 -12.1%
EPS ^{*1}	136.82 円		164.67 円		144.79 円		第4四半期の為替前提	
							USD	110円
							EUR	130円
換算レート	USD	108.38 円	110.00 円		111.00 円		為替感応度*2	
	EUR	118.79 円	125.00 円		129.00 円		USD	△30
							EUR	△15
							その他通貨合計	△28
								△11

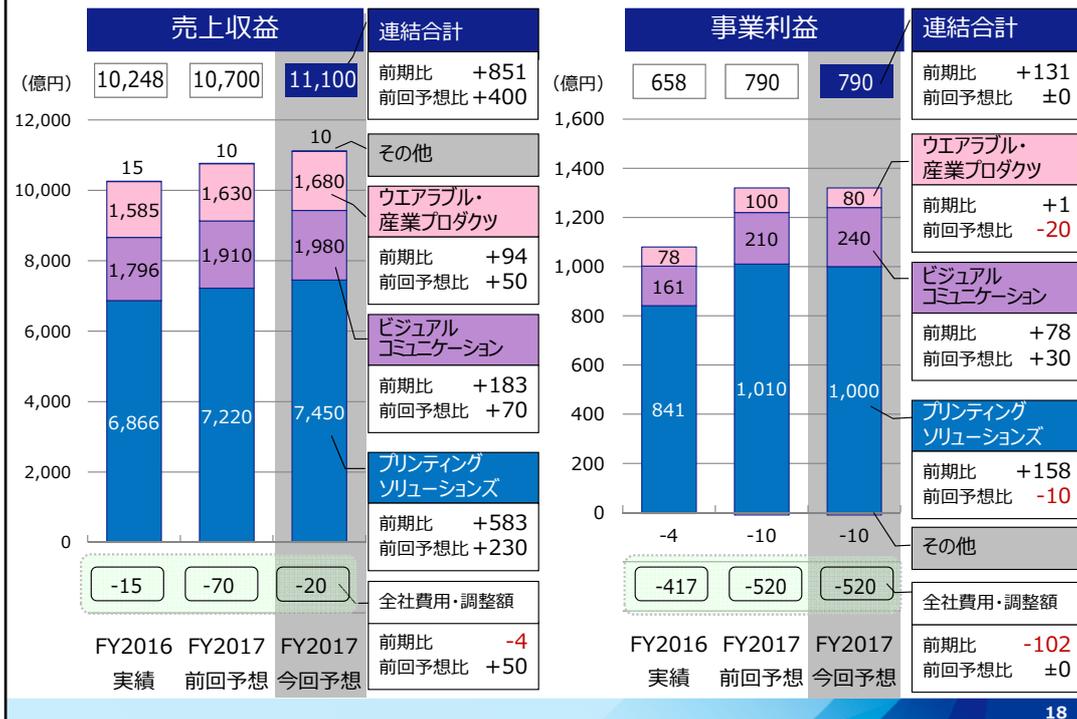
*1:基本的1株当たり当期利益

*2:USD/EURは1円の円高による年間影響額 (億円)
その他通貨は1%の円高による年間影響額 (億円)

17

- 2017年度通期の業績予想は、ご覧のとおりとなります。
- 売上収益は 1兆 1,100億円
事業利益は 790億円
当期利益は 510億円 としました。
- また、第4四半期の為替前提は、足元の円安水準を反映し、
USドル 110円、ユーロ 130円としました。

2017年度 業績予想 ▶ 事業セグメント別



▶ 通期業績予想の、事業セグメント別の売上収益と事業利益は、ご覧のとおりです。

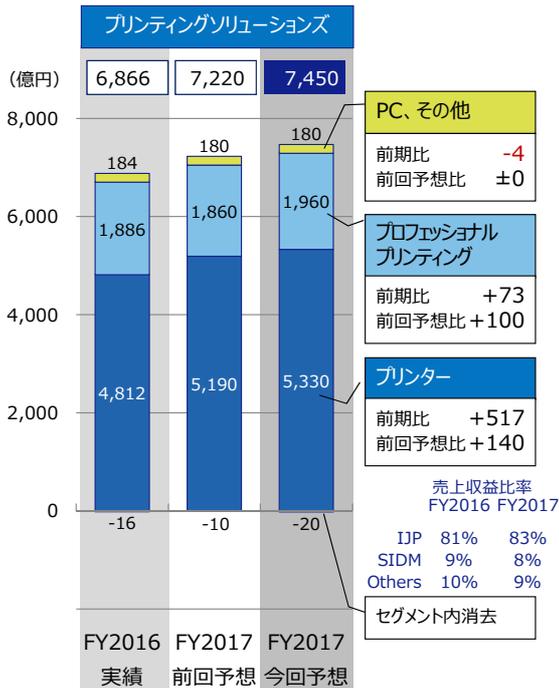
- 成長に向けた取り組みは前進
 - 大容量インクタンクモデルの売上拡大継続
 - 高速ラインインクジェット複合機のグローバルローンチ
 - サイネージ・テキスタイル・ラベル用大判プリンター/プロジェクター/ロボットの売上拡大
- 事業環境の変化を反映
 - 為替前提の見直し（4Q:USD 110円/EUR 130円）
 - 部品・材料調達価格のさらなる上昇
 - プリンター：インクカートリッジモデルの本体/インクの環境変化
 - マイクロデバイス他（水晶）：中国モバイルメーカー需要の変調
 - ウエアラブル機器：一部新製品の販売低迷

事業環境に変化があったものの、成長のベースとなる売上収益は拡大しており、将来成長に向けた費用投下・投資は継続する

- ここで、2017年度の業績予想のポイントを説明いたします。
- エプソンの成長に向けた取り組みは着実に前進しています。
- 現在の収益ドライバーでもある、大容量インクタンクモデルの販売は、一部において第4四半期にスライドとなりましたが、各地域で、引き続き、需要が強く推移していることから、年間での販売数量は、前回予想からさらに引き上げ、790万台以上を見込みます。
- 高速ラインインクジェット複合機は、グローバルでの展開を開始しました。
- サイネージ、テキスタイル、ラベル用の大判プリンターや、プロジェクター、ロボットは、継続的な販売拡大を予想しています。
- 今回の業績予想では、エプソンの取り組みの成果を継続的に見込む一方で、直近の事業環境における変化を反映しました。
- 第4四半期の為替前提は、足元の水準を鑑み見直します。
- 部品や材料などの調達価格は、前回予想から、さらに上昇することを見込みました。
- プリンター事業では、インクカートリッジモデル本体で、競合プロモーションへの対応に加え、インクにおいても、家庭向け本体の稼働台数減少による影響などを見込んでいます。
- 水晶では、中国モバイルメーカーの需要変調による、売上減少を見込みました。
- ウエアラブル機器は、一部新製品の販売低迷を織り込みました。
- 以上の通り、事業環境に変化がありましたが、成長のベースとなる売上収益は着実に拡大しています。したがって将来成長に向けた費用投下や投資は、中期経営計画に基づき、意志を持って実施してまいります。
- この方向性に基づき、設備投資は、将来的な生産体制の強化に備えて、海外の事業用地を拡張することとし、今期の予想を増額いたします。

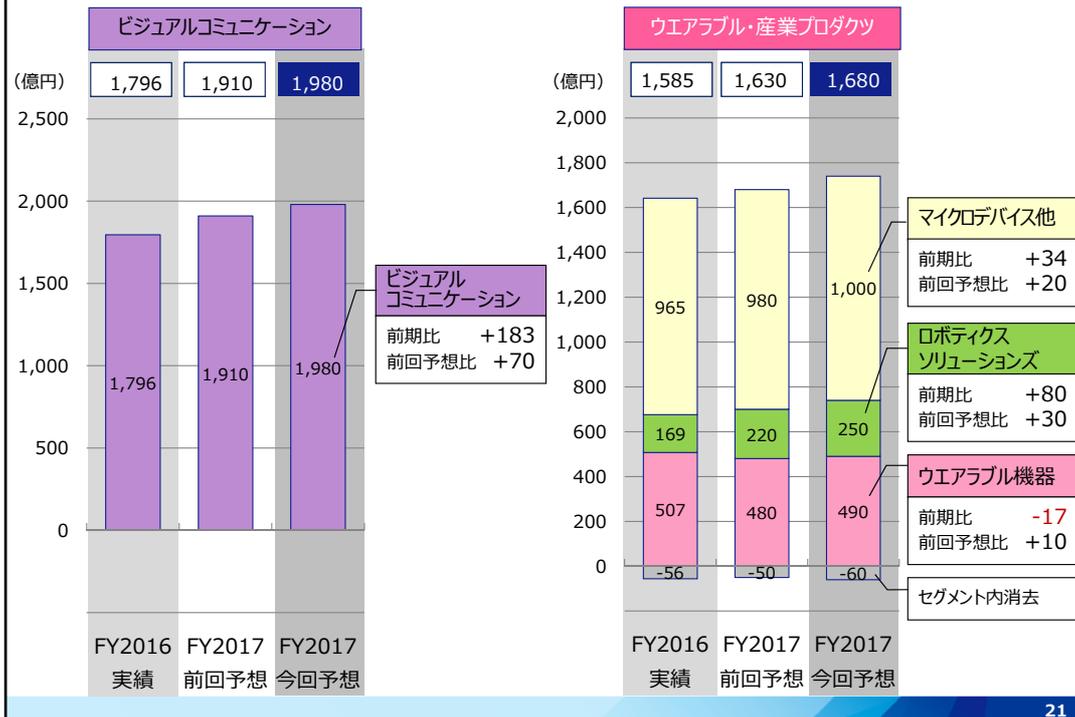
2017年度 業績予想 ▶ 事業別売上収益

EPSON
EXCEED YOUR VISION



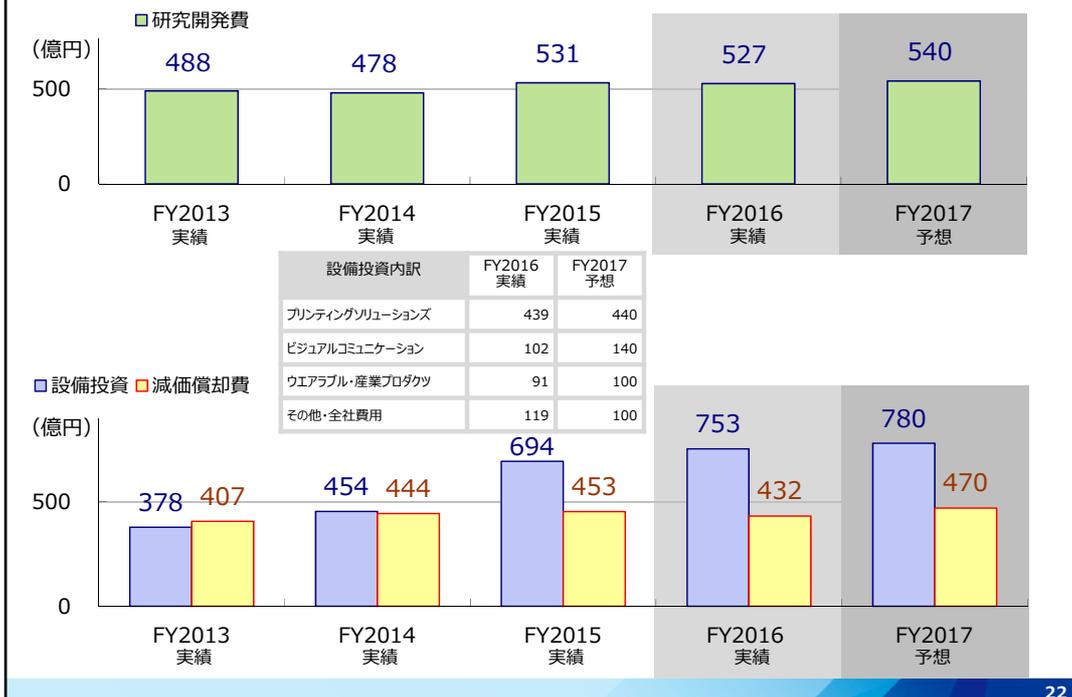
- こちらは、プリンティングソリューションズの事業別売上収益です。
- 先ほどご説明したとおり、
プリンター事業は、
インクカートリッジモデル本体で、競合プロモーションによる影響や、
インク売上の減少を見込む一方、
大容量インクタンクモデルのさらなる増加を反映しました。
- プロフェッショナルプリンティングは、
POSプリンターを中心に堅調な推移を見込みます。
- 以上に加え、為替のプラス影響もあり、セグメント全体で上方修正いたします。

2017年度 業績予想 ▶ 事業別売上収益



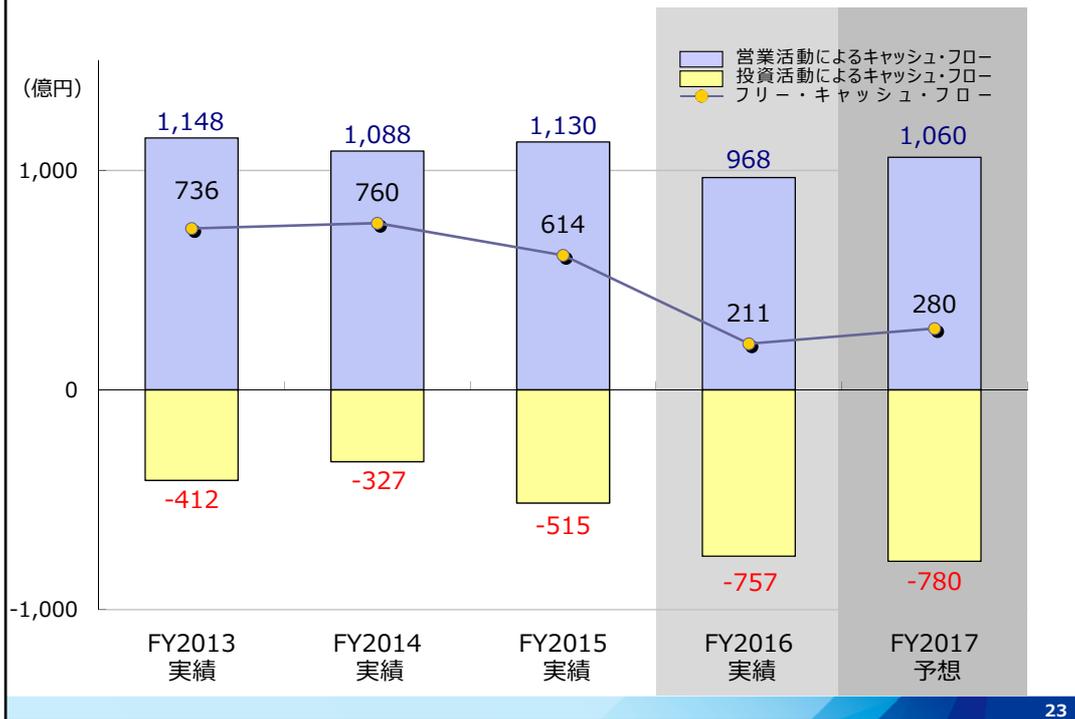
- こちらは、ビジュアルコミュニケーションとウエアラブル・産業プロダクツの事業別売上収益です。
- ビジュアルコミュニケーションは、前回予想同様に、プロジェクターでの着実な数量成長に加え、高光束モデルなどの高付加価値製品の販売増加によるモデルミックスの改善を計画しており、為替のプラス影響もあり、上方修正いたします。
- ウエアラブル・産業プロダクツでは、水晶デバイスでの売上減少や、ウエアラブル機器での一部新製品の販売低迷を織り込むものの、ロボティクスソリューションズや、半導体での堅調な販売を反映し、為替のプラス影響もあり、セグメント全体で上方修正いたします。

研究開発費/設備投資・減価償却費



- 研究開発費は前回予想から変更ありません。
- 設備投資は、前回予想から20億円増額の780億円を見込みます。
- 減価償却費は、為替が円安に推移していることなどから、前回予想より20億円増額となる、470億円を見込みます。

フリー・キャッシュ・フロー



- 2017年度のキャッシュ・フローの予想は、
営業活動によるキャッシュ・フローは、1,060億円を据え置きますが、
投資活動によるキャッシュ・フローは、780億円に変更し、
その結果、フリー・キャッシュ・フローは、280億円と予想します。

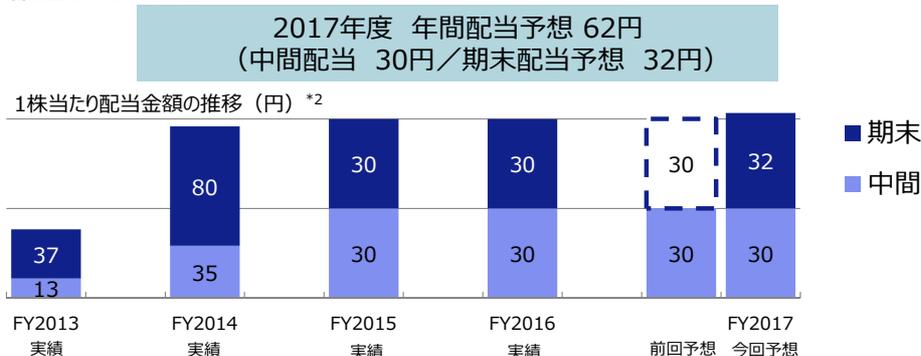
主な経営指標



- 以上の業績予想に基づく2017年度の主な経営指標は、
 ROSが 7.1%
 ROAが 7.8%
 ROEが 9.9% となります。

- 成長戦略に基づく投資を最優先に行ったうえで、経営環境の変化などに耐え得る強固な財務構造の構築と積極的な利益還元に並行して取り組む
- 中期的には連結配当性向*140%程度を目標としたうえで、株価水準や資金の状況などを総合的に勘案し、必要に応じて機動的に自己株式の取得を行い、より積極的な株主還元を図る

■ 配当実績・予想



*1: 当社の本業による利益を示す事業利益 (日本基準の営業利益とほぼ同じ概念の利益) から法定実効税率相当額を控除した利益に基づく
*2: 当社は2015年4月1日に1:2の株式分割を実施しました。グラフの高さは分割後の水準で表示しています

- 最後に、株主のみなさまへの利益還元についてご説明します。
- ご覧の通り、株主還元の基本方針と中期的な目標は、中期経営計画で示した内容から変更ありません。
- 2017年度の配当は、中間配当で、期初予想どおり1株当たり30円といたしましたが、期末配当は、今期の業績が戦略の進捗や為替影響などにより、前期比で増収・増益の見通しであるため、連結配当性向や資金の状況などを考慮し、前回予想の1株当たり30円から32円に上方修正いたします。
- これにより、1株当たり年間配当については、中間配当と合わせて、62円となる予定です。
- 以上

補足資料

主要商品の販売動向

■ 実績および予想（前年同期比）

ASP, 売上収益は日本円換算後

商品		FY2016 通期(実績)	FY2017 1Q(実績)	FY2017 2Q(実績)	FY2017 3Q(実績)	FY2017 通期(予想)
為替レート	USD/EUR	¥108.38 / ¥118.79	¥111.08 / ¥122.12	¥111.00/ ¥130.36	¥112.92/ ¥132.96	¥111.00 / ¥129.00
IJP 本体	数量	+5%	+7%	+4%	+13%	+10%
	数量構成比 オフィス/大容量	約20%/約40%	-	-	-	20%弱/50%弱
	ASP	-1桁%台後半	+10%台前半	+10%台半ば	+10%台前半	+10%台半ば
	売上収益	-1桁%台前半	+10%台後半	+20%程度	+20%台半ば	+20%台後半
IJP インク	数量	-4%	-2%	-3%	-7%	-
	ASP	-1桁%台前半	+1桁%台半ば	+1桁%台後半	+1桁%台後半	-
	売上収益	-1桁%台半ば	+1桁%台前半	+1桁%台半ば	前期並み	+1桁%台前半
SIDM 本体	数量	+4%	-25%	-15%	+19%	-9%
	ASP	-10%台後半	+1桁%台前半	+1桁%台後半	前期並み	+1桁%台前半
	売上収益	-10%台半ば	-20%台前半	-1桁%台後半	+10%台後半	-1桁%台後半
プロジェクター	数量	+6%	-2%	+1%	+5%	+3%
	ASP	-1桁%台後半	+10%台半ば	+10%台半ば	+1桁%台後半	+1桁%台後半
	売上収益	-1桁%台前半	+10%台前半	+10%台半ば	+10%台前半	+10%程度

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。

主な業績指標

EPSON
EXCEED YOUR VISION

(億円)

	項目	FY2016 実績	FY2017 予想	FY2018 目標
為替レート	USD	¥108.38	¥111.00	¥115.00
	EUR	¥118.79	¥129.00	¥125.00
プリンティング ソリューションズ	売上収益	6,866	7,450	8,050
	事業利益	841	1,000	-
ビジュアル コミュニケーション	売上収益	1,796	1,980	2,000
	事業利益	161	240	-
ウェアラブル・ 産業プロダクト	売上収益	1,585	1,680	1,950
	事業利益	78	80	-
その他	売上収益	15	10	0
	事業利益	△4	△10	-
全社・調整額	売上収益	△15	△20	0
	事業利益	△417	△520	-
連結合計	売上収益	10,248	11,100	12,000
	事業利益	658	790	960
	ROS	6.4%	7.1%	8%
	ROE	10.1%	9.9%	継続的に 10%以上

(億円)

項目	FY2016 実績	FY2017 予想	Epson 25 第1期累計
USD	¥108.38	¥111.00	¥115.00
EUR	¥118.79	¥129.00	¥125.00
営業CF	968	1,060	3,300程度
FCF	211	280	1,200程度
設備投資	753	780	2,100程度
研究開発費	527	540	積極的に投下

EPSON
EXCEED YOUR VISION